

## ボランティア活動の報告（台風19号による被災地）

2019年10月26日（土） 栃木市

（編集：S）

参加者＝6名（H・O・H・K・N・K）他 5名 計11名

野木町所有のバスで公民館をAM8時出発し栃木市へ。

各地から300名位が集結するなか、栃木市社会福祉協議会から参加者へのオリエンテイがあり、私たち11名は栃木市環状道路(カインズ)の反対側の住宅地に入りました。

自衛隊の皆さんは、うずたかく積み上げられた、多くの浸水家具がドンドン機動力を発揮し搬出していました。

私達11名は班責任者をHさんをお願いし、定められた自治会の地域の自治会長を先頭に1軒1軒尋ね、要望のある家の家搬出をしました。

その後、汚泥のひどい家庭に全員が集中し、国学院高校野球部の青年たちと共に、厚さ10～15cmある硬く凝固した粘度のある汚泥の搬出となり、これは重労働でした。

Kさんも1袋20～30kgにもなる汚泥袋つくりと搬出に泥だらけになり大奮闘しました。

栃木市長も激励に訪れ、当該家庭のご夫妻からも熱い感謝の言葉が寄せられるなか15時に作業終了しました。

また今ボランティア活動に際し、1会員から「作業に使って・・・」と多数のタオルが差し入れられ、皆さんで感謝しつつ活用させていただきました。有難うございました。

明日は佐野市とのこと。明日もまた野木山想会をアピールしつつ頑張ります。（O）



2019年10月27日（日） 佐野市

参加者＝6名（H・O・N・K・M・H）他6名

昨日同様、野木町バスに乗りAM8時出発。目的地は昨日と異なり佐野市です。

指示された駐車場で待機し、佐野市社協の指示により並木町の2軒を担当。

野木町ボランティア12名は6名・6名に分かれ、野木山想会は一人住まいの女性書道塾経営宅の床下汚泥搬出（8畳二間）と庭の流木と庭木に汚泥と一緒に絡みあい土手のように固まった篠や様々な物を除去する重労働でした。

旗川を中心とした氾濫で、この地域一帯は全ての家庭が強弱はあれ浸水被害家庭となっており、多くのボランティアが懸命に活動を続けていました。

初参加のMさん、Hさんも汚泥で真っ黒になりながら

1日懸命に頑張ってくださいました。ご苦労様でした。（O）



## 2019年11月1日(金) 栃木市

参加者=6名 (H・S・K・H・N・M)

栃木県園部町 4 丁目 N 邸に派遣されました。永野川右岸の堤防より数メートルも低く、堤防が決壊すればさもありなんと言う場所でした。作業内容は2センチ位積もったケーキ状に乾いたヘドロの撤去、下に芝があり、砂利ありで両者ともに残す様に頼まれ、残し具合を考えながらの作業でした。そのうえ庭の植木の下の草や竹を刈って下の方のヘドロを取ってください。と頼まれましたが草の下にはヘドロのないのは一目瞭然でした。本来草刈は頼まれた事以外の事ですが、ここまでの被災者の方の苦労と疲れを考えると、時間がある限り黙ってやってあげる事が被災者に寄り添う事かなと気付きました。(H)

## 2019年11月5日(火) 栃木市

参加者=15名 A班(H・K・S・M・K・N・K・K)

B班(O・M・F・N・T・K・S)

状況により2班に分かれて活動しました。

A班は園部町3丁目永野川左岸の錦着山駐車場西のS邸に配属されました。

現場は居住した区画の二階は道路より1mも高く、一階の物置とお茶の稽古場は道路より2mも低くここが1m以上浸水し、物置には商売柄沢山の陶器が保存されていたところに、厚さ20センチの生のヘドロが積み重なっていました。生のヘドロは今回初めてで日当たり風通しの加減で水分が蒸発していないようです。ほんの少し残すもの以外の、泥にまみれた陶器製類と雑物を片付け、ドロドロの泥を土のう袋に入れる作業を、全員泥にまみれで行いました。建築関係の鈴木さんは和室の床板ががしを一人で行い、ベニア板の1枚ごとの層を剥すので手間がかかったそうです。自分の敷地内の屋根のある場所に置き、道路は通行の邪魔になり美観もあるから置かないとおっしゃっていますが、敷地内のもは個人資産になるので持っていきませんよ、と説明しボランティアセンターの環境課に電話を入れてもらい、ご本人にも話をし環境課に確認の電話を入れてもらいました。なお最後に裏の庭にやはり10~20cmのヘドロが見受けられたのでそれもボランティアセンターへ連絡するように話をし、帰りの報告に書いておきました。(H)

B班は7名と他1名で栃木駅に近い住宅のY邸に配属されました。

90代と80代の老夫婦2人暮らし、90歳のおじいちゃんがこの災害にショックを受け入院をされており近所の方が手伝いに来ていました。中の不要な物を運び出すという作業で、住人の指示のもと男性軍が室内から運び出し、女性軍が受け取り近くの積載場所まで運びました。一通り終わり近くの空き地で休憩をとり、住人に挨拶し、本当に助かりましたと、お礼を言われボランティアセンターまで徒歩で30~40分で戻りました。昼食をとり午後1時にまた別な場所へ出発しました。



2件目は栃木ふれあいセンターで避難所となっている施設です。  
 60cm?位の浸水があり、水がはけた後は20cm位の汚泥が溜まり、  
 避難所という事で逸早く自衛隊が施設周辺の汚泥を撤去して  
 頂いたそうです。私達は細かい所の泥の掻き出し作業です。  
 男性軍は庭の一角にひき詰められた泥まみれの小石を掻き出して  
 綺麗に洗い元に戻すという作業、女性軍は植え込みの中の泥の撤去。



泥は粘度の様に粘っこく、乾いてくると固くなり枝から離れないので手で砕いてはがし、土のう袋に入れ1輪車で所定の場所まで運ぶという作業を4人で頑張りました。汚泥という物がこんなに重く厄介な物だと初めて知りました。まだまだボランティアは必要だと感じ、微力ですがまた参加しようと思いました。(S)

### 服装や持ち物の一例



- 帽子、ヘルメット
- 軍手やゴム手袋
- 長袖・長ズボン
- 食べ物・飲み物

- マスク
- タオル
- 着替え
- 常備薬、目薬 など